

「平成30年度 長崎県教育センター研究発表会」のお知らせ

平成31年2月13日(水)に開催する「長崎県教育センター研究発表会」における発表の中から4つを紹介します。皆様の参加をお待ちしています。

小学校における プログラミング教育の在り方

発表者：林田 一成 対象校種：小学校

2020年から小学校においてプログラミング教育が始まります。本年度に実施した小学校プログラミング教育研修講座では、受講者から次のような疑問や不安の声がありました。

「教えるためには専門的な知識がいるの？」

「どのような教材を使うの？」

「どの学年のどの教科で実施するの？」

当センターは島原市立第一小学校を協力校として、2年間の調査研究を行い、県内の各小学校で無理なく実践可能な授業モデルを作成してきました。

本発表は、上記の疑問や不安の声に対して、具体例を基に、今後の実践や研修の在り方について提案します。

プログラミング教育入門のための発表です。皆様のお越しをお待ちしております。

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた授業設計の在り方

発表者：黒川 智通 対象校種：高等学校

1・2年次の調査研究を通して明らかになった授業設計のポイントや課題をふまえ、本年度は研究協力校に学校全体で授業改善に取り組んでいただき、検証を行いました。本発表で提案したい授業設計の在り方は主に次の2点です。

- ① 資質・能力をベースに子どもたちに身に付けさせたい力を設定することから始め、PDCAのサイクルを繰り返しながら学校全体で授業改善に取り組む中で、個々の授業設計をしていくこと。
- ② 1単位時間の授業について、単元を見通したうえで、アウトプットを促す問いの工夫や、学びの成果を可視化する振り返りの場면을定期的に組み込むこと。

新学習指導要領実施に備え、今こそ熟考したものです。

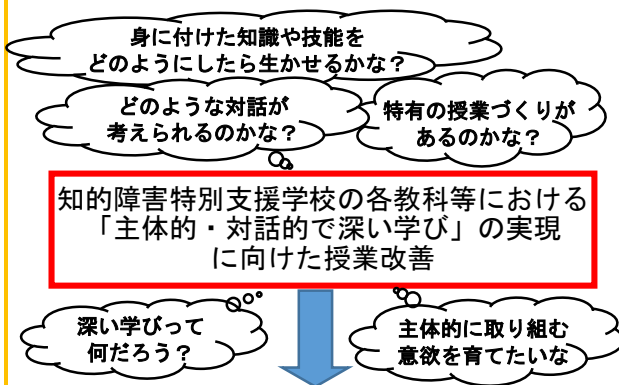
「深い学び」を実現するために 教師は何をするべきか

発表者：坂上 弥生 対象校種：小学校・中学校

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善がうたわれ、資質・能力の育成や質の高い理解を図るための学習過程の質的改善を行うことが示されました。その実現のためには、授業をデザイン（設計）する段階で、単元や本時で目指す子供の深い学びの姿を具体的に想定し、その姿に迫るための教師の発問や手立て等を精査しておく必要があります。また、授業をマネジメント（運営）する時には、一人一人の子供の発言や記述、表情などから学びの深さの度合いを見取りながら、効果的にコーディネートしていく必要があります。授業の成否は子供と教師と内容（教材）の関係性によって決まります。よりよい授業づくりについて、共に考えましょう。

「深い学び」って、 どんな学び！？

発表者：伊藤 公裕 対象校種：特別支援学校



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、長崎大学教育学部附属特別支援学校と連携し、実践に取り組みました。本発表では、以下の3点について提案し、参加される先生方と協議等を行いながら一緒に考え深めます。

発表概要（以下のことについて提案します！）

- ・知的障害のある児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の姿とは。
- ・単元構想シート、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点シート
- ・長崎大学教育学部附属特別支援学校中学部「家庭科」の授業における実践